

なぜOSCに「トキ」か？



内閣府認証NPO法人地域自立ソフトウェア連携機構(MSCO)
理事・事務局長 高橋正視(masami@msco.jp)

本日の予定

【1】NPO法人MSCOの紹介

【2】学生ボランティア、企業CSR活動としてのトキ野生復帰ボランティアの紹介

【3】佐渡トキ検定アプリの紹介

【4】被災地支援の郷土検定アプリなどの開発協力者募集



【1】NPO法人MSCOとは？

- (内閣府認証)特定非営利活動法人地域自立ソフトウェア連携(MSCO)
- この法人の英文名は、Municipality Software Co-operation Organizationとし、略称はMSCOとする。
- Municipality・・・「自治体の」
- 翻訳すると「地方自治体ソフトウェア協力機構」



平成の大合併の前に設立

- ・MSCO設立記念シンポジウム(2003年1月31日)
- ・当時は3300の自治体があった
- ・UBA(UNIX Business Association)の支援を受けて設立
- ・会員企業はサン・マイクロシステムズなど
- ・2003年のビジネスシヨウに共同出展



自治体からは相手にされず・・・

- 人口30万の市でも、人口3万の町でも、システムの開発費は同じ(大手ITゼネコンが受注)
- 小さな地元の会社でも、横連携すれば、地元の自治体のソフト開発が安くできるはず
- オープンソースにできなくても、会員同士ではソースを共有して開発しよう
- しかし、平成の大合併後も、地方自治体のシステムは大手ITゼネコンが受託



自治体の職員の意識が問題？

- ・阪神淡路大震災の時に、西宮市の職員が開発した「被災者支援システム」も、ソースが公開され自治体は無料で使えるようになっているのに、ほとんど導入されなかった
- ・ソフトは導入すれば良いというわけではないのに、業者丸投げの自治体も多い
- ・徐々にではあるが職員の意識も変わってきているので、オープンソースを活用する自治体も増えてきた



【2】トキの野生復帰

- (1) トキは日本中の空を飛んでいたが、明治以降の乱獲等で日本産のトキは絶滅。
- (2) 中国から贈られたトキの人工飼育に成功。日本のトキが100羽以上になったので2008年から飼育トキを放鳥。まだ自然界での繁殖はない。
- (3) トキの餌場を確保するために、休耕田をビオトープとして整備している。



作業1:ビオトープづくり → 整備



- 休耕田をビオトープにし、トキの餌場とする作業。
- 麦わら帽子、長袖、手袋、長靴での作業
- 地元の方々との世代間交流・地域間交流



作業2: 生き物調査



- すでに作られていた
ビオトープの生き物
を調べる
- 農薬を使わない田
んぼにはクモの巣が
発見できる



生き物いっぱいのおんぼ

トキの野生復帰を応援しています。!!

生き物いっぱいのおんぼ



おんぼと田んぼを行ったり
来たりできるんだよ。

水路 ↓



おんぼ（水たまり）のおかげで、
いろいろな生き物がたくさん
住んでいるんだよ。
のぞいてみてね。



カエルのこ

おんぼ
ぼくたちの仲間も
安心してらせるケロ



ヘビのこ



とくしま県環境部 自然環境課

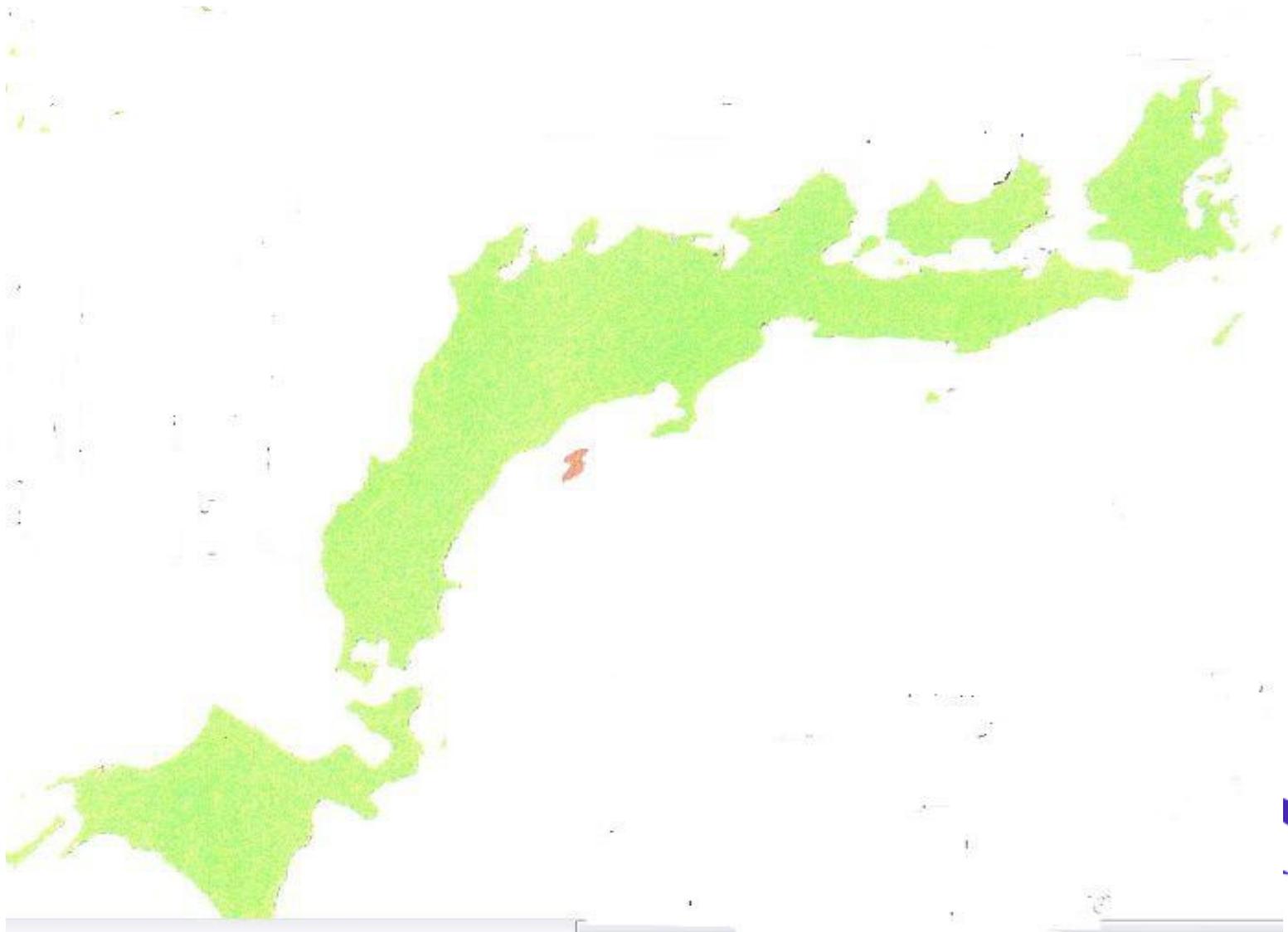
佐渡地域振興局 農林水産振興部

トキ保護だけが目的ではない

- トキは日本中の里地・里山にいた
- 最後は豊かな自然が残る佐渡だけに生息していた
- トキが棲めなくなった土地は、人間にも住みやすいところではないのでは
- 佐渡を、トキも人間も共生できる島にしよう→日本も再生しよう



佐渡は日本の重心(？)



佐渡は日本の縮図

- 佐渡はリンゴもみかんも収穫され、マグロやブリも捕れる。高くない山に高山植物を見つけることができる
- 佐渡は人口63,000人、毎年1,000名の人口減が続いている
- 佐渡の山林は日本一荒れている
- 大震災がなくても、佐渡は危機的な状態



佐渡が元気にしてから・・・

- 佐渡を元気にしてから、日本を元気にしよう
- 佐渡トキ検定→被災地支援の郷土検定
- アンドロイドタブレットで佐渡の第1次産業を元気に
- 佐渡を、オープンソースアイランドに
- いずれはOSC佐渡？



東京工科大学では単位認定

- 東京工科大学では、1週間のボランティア活動に対して単位認定の制度あり
- 私は、東京工科大学で「ボランティアの理論と実践」という講座を担当していた
- 佐渡島ボランティアはNPO法人の企画で実施、大学から金銭的な支援をされているわけではない
- 学生からボランティア認定料がNPOに

佐渡には大学がない

- 佐渡には大学がないので、多くの大学生の来島を歓迎
- 多くの大学が佐渡で研究のために来島しているが、何をやってるのか地元の方々にはわからない
- 東京工科大学の学生のように、地元の方々と作業できるプログラムが必要とされているようだ



新潟県から業務委託されました

- もっと多くの大学生を佐渡に連れてきて欲しい→東大の9月入学などが始まれば、高校卒業後のプログラムとしても注目される(?)
- 企業CSR活動としても、佐渡でのトキの野生復帰ボランティア活動はPR効果高いのでは…
- 新潟県から、NPO法人MSCOに、首都圏でのセミナー実施の業務委託

丸秘情報ですが・・・



地元でトキ
の餌場確保
を続けてい
る人は明星
大学の卒業
生



【3】佐渡トキ検定アプリの紹介

佐渡トキ検定

～トキと共生する島づくり検定～

～佐渡から世界へ～

日時：2012年3月10日(土)、11日(日)

◆「佐渡トキ検定」は落とすための試験ではなく、佐渡でボランティア活動を行う大学生と佐渡の人々が、知識を共有することが目的です。受験生というより、このような目的の試験をいっしょに作りあげていく人を募集します。

◆試験は、従来のような紙と鉛筆ではなく、野外でも自由に使えるタブレットPC（OSはアンドロイド）という新しいコンピューターで実施。

◆タブレットPCは、第一次産業の情報化に大きな貢献が期待でき、佐渡に適したコンピューターになると思われる。



主催 NPO法人地域自立ソフトウェア連携機構（MSCO）事業「佐渡トキ検定～トキと共生する島づくり検定～」（日本財団助成事業）

問い合わせ 03-3268-1525 (masami@msco.jp) <http://www.msco.jp/>

- ・NPO法人地域自立ソフトウェア連携機構（MSCO）では、日本財団の助成事業として「佐渡トキ検定」を実施
- ・従来の紙と鉛筆による試験（PPT・・・Paper and Pencil Tests）ではなく、いつでもどこでも実施できる随時試験を開始



お酒を飲みながらテスト(1)



お酒を飲みながらテスト(2)



ご当地検定の現状

- 日本人は難しいテストが好き。3級くらいに受かってても魅力がない。
- 3級の受験者が増えないので、赤字の自治体が多い。
- 合格者のメリットが少ないと受験者も増えない。
- 公式テキストに誤りが多いと非難され、毎年の改定にもお金がかかる。
- ほとんどが赤字



ご当地検定(3級)の応募者・受検者

3級	博多っ 子検定	京都・ 観光文 化検定	江戸文 化歴史 検定	ニイガタ 検定	佐渡観 光・文化 検定	沖縄大 好き検定
2003年	?					
2004年	?	5,934				
2005年	?	7,085				
2006年	?	5,608	6,938			
2007年	?	3,888	3,651	3,007		
2008年	中止	3,164	2,115	940		1,035(?)
2009年		2,350	1,158	677		514(?)
2010年		2,422	994	206(?)	650	中止
2011年					247	



日本型テストの限界

- 問題の難易度を調整するのが難しい。
- 採点後に調整（古典的テスト理論・・・偏差値の採用など）
- 年に何回も実施するテストでは、公平な試験の実施が難しい。
- 試験監督が大変になった。（携帯でのカンニング）



ある国家試験（資格試験）

年度	申込者数	受験者数	合格者数	合格率
平成 8 年度	43,267	36,655	2,240	6.11%
平成 9 年度	39,746	33,957	2,902	8.55%
平成 10 年度	39,291	33,408	1,956	5.85%
平成 11 年度	40,208	34,742	1,489	4.29%
平成 12 年度	51,919	44,446	3,558	8.01%
平成 13 年度	71,366	61,065	6,691	10.96%
平成 14 年度	78,826	67,040	12,894	19.23%
平成 15 年度	96,042	81,242	2,345	2.89%
平成 16 年度	93,923	78,683	4,196	5.33%
平成 17 年度	89,276	74,762	1,961	2.62%

日本のテストはいい加減

- その分野の専門家が問題を作成しているだけで、テスト理論の専門家が入っていない。問題の難易度の調整が難しい。
- 日本は入口テスト、アメリカは出口テスト。全国一斉に同じ条件で実施するので、「受験に関して有利不利はない」とされているだけ。
- 日本では、問題の評価があまり行われなない。
- 本来は学習したことをテストするはずが、テストのための学習になっている。



文部科学省も問題の評価に注目

- さまざまな検定が増え検定の質が問われている
- 検定を個人が獲得したキャリアと見る時、客観的な質やレベルを知りたいという声が多くなっている
- 以前は「文部省認定試験」があったが、小泉改革で廃止。しかし、文部科学省は、試験の質を評価するための指針を作る方針を打ち出した



アメリカ型テストの提案

- ・コンピュータを使って、いつでもどこでも実施できる試験を！
- ・採点後に調整ができないので、テスト理論を用いた研究が必要。
- ・古典的テスト理論→項目反応理論
- ・専門家だけでなく、テスト理論の研究者も含めた問題作成や評価、分析

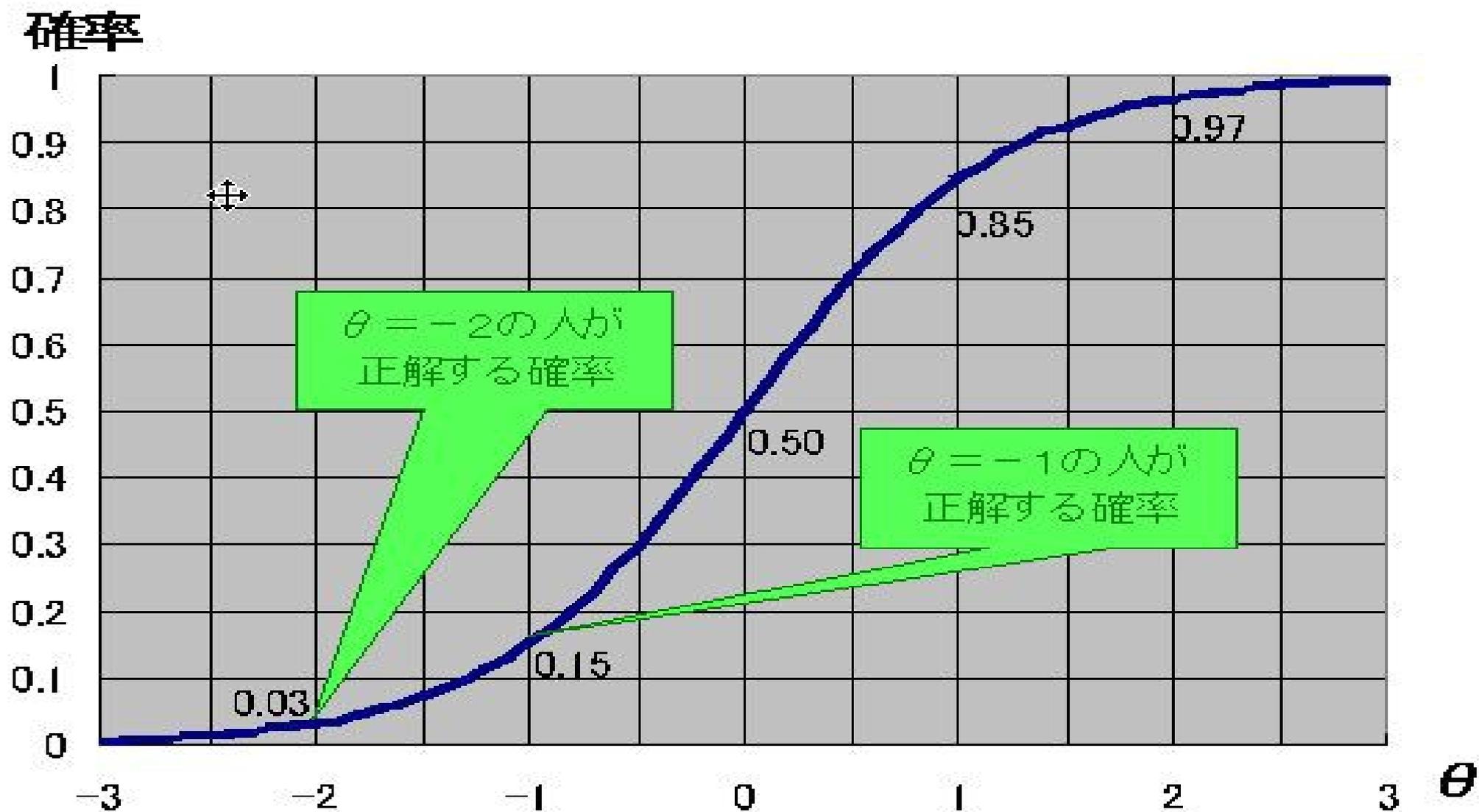


ご当地検定はアメリカ型のテスト

- ご当地検定は、「日本型のテスト」(大きな問題を少ない数で出題)ではなくて、アメリカ型のテスト(小さい問題をたくさん出題する)が多い。
- アメリカ型のテストであれば、全国一斉に紙と鉛筆のよるテストでなく、コンピューターによる随時テストが向いている。



なぜ、絶対評価が可能か



佐渡トキ検定の実施目的

- (1) 佐渡のトキの野生復帰運動に東京工科大学の学生が多数参加。大学の単位になるし、就職にも有利だということで、希望者が殺到。他の大学からも参加希望がある。
- (2) 不純な目的の学生が増えると、地元迷惑をかける恐れがあるので、あらかじめ佐渡とトキのことを勉強した学生だけを連れて行きたい。
- (3) 落とすために試験ではないから、勉強した人は全員受かる試験であってもよい。



【4】被災者支援アプリを作ろう

佐渡トキ検定

～トキと共生する島づくり検定～

～佐渡から世界へ～

日時：2012年3月10日(土)、11日(日)

◆「佐渡トキ検定」は落とすための試験ではなく、佐渡でボランティア活動を行う大学生と佐渡の人々が、知識を共有することが目的です。受験生というより、このような目的の試験をいっしょに作りあげていく人を募集します。

◆試験は、従来のような紙と鉛筆ではなく、野外でも自由に使えるタブレットPC（OSはアンドロイド）という新しいコンピューターで実施。

◆タブレットPCは、第一次産業の情報化に大きな貢献が期待でき、佐渡に連したコンピューターになると思われる。



主催 NPO法人地域自立ソフトウェア連携機構（MSCO）事業「佐渡トキ検定～トキと共生する島づくり検定～」(日本財団助成事業)

問い合わせ 03-3268-1525 (masami@msco.jp) <http://www.msco.jp/>

- ・NPO法人地域自立ソフトウェア連携機構（MSCO）では、日本財団の助成事業として「佐渡トキ検定」を実施
- ・このソフトをオープンソースとして公開して、他の郷土検定や被災地支援の郷土検定などが実施できるようにしてはどうか。



3. 11以降のボランティア

【1】義援金を寄付

【2】被災地に行って様々なボランティア活動

【3】被災地の商品を購入

【4】被災地のことを勉強して、復興を楽しみに待つボランティア



【協力者募集】

被災地支援の郷土
検定アプリを作ろう！



内閣府認証NPO法人地域自立ソフトウェア連携機構(MSCO)
理事・事務局長 高橋正視(masami@msco.jp)



第1回全国郷土検定サミット



全国郷土検定サミット2012 in 那須 2012年2月25-26日 那須高原R/ びわ湖口イビルホテルにて

今後の予定

- NPO法人MSCOでアンドロイド分科会
 - まず簡単な検定用アプリを開発
 - その後は、様々な検定に使えるアプリを共同開発
 - アプリ開発に興味のない方は、問題集（アイテムバンク）の整備
 - みんなで被災地支援用の検定アプリを作ろう
- 